

作成日：西暦 2024 年 6 月 14 日

研究に関するホームページ上の情報公開文書

研究課題名：膵腫瘍における画像診断所見および臨床病理学的特徴と
遺伝子発現プロファイルの相関に関する検討

本研究は藤田医科大学の医学研究倫理審査委員会で審査され、学長の許可を得て実施しています。

1. 研究の対象

2012 年 1 月～2024 年 12 月までに 藤田医科大学病院消化器内科にて、膵腫瘍に対し術前画像検査、及び外科的治療を行った患者さん。

2. 研究の背景・目的・方法・研究期間

【背景】

膵癌の 5 年生存率はあらゆる癌の中で最も低く 10%未満にとどまります。その中でも浸潤性膵管癌、神経内分泌腫瘍が極めて予後不良であり、他は様々ですが概して緩徐な進行を示すことが多いと言われています。従って臨床上、膵腫瘍の病名を確定させることはその後の治療に関わる重要な問題になります。近年では、膵癌に対して遺伝子の網羅的解析が行われ、代表的遺伝子変異の特徴が明らかにされつつありますが、臨床的には同じ膵上皮性腫瘍である膵癌でも画像所見上の差異、臨床経過が異なるグループが存在し鑑別は困難です。

従来の方ですとこれらの鑑別は、病理所見による評価が中心となりますが、それに追加して癌細胞の遺伝子プロファイルの違いによって鑑別する方法が報告されています。当科ではこれまで膵癌を鑑別診断する上で、腹部エコー、超音波内視鏡(EUS)の有用性に関して多数報告してきました。今まで蓄積された膨大な画像データと遺伝子プロファイルを組み合わせることで、未知の関連性を明らかにできる可能性があります。

また、同じ膵癌の中でも遺伝子変異により化学療法に対する反応性が異なるという報告もあり、遺伝子プロファイルと画像イメージとの関連性を見つければ、これまでの診断のストラテジーが大きく変更できるだけでなく、化学療法の新規組み合わせ等新たな治療を提案できる可能性があります。

【目的】

術後病理診断と遺伝子学的特徴をもとにそれぞれの膵癌の画像所見を後方視的に解析することにより画像的特徴を明らかにし、膵癌における遺伝子発現プロファイルと画像イメージングとの関連性を検討することを目的とします。

【方法】

2012年1月より当科で術前診断を行った膵腫瘍の症例を対象として病理プレパラートを使用し、標的細胞群をレーザーマイクロダイセクションにより切断し、DNAを抽出する。遺伝子発現プロファイルの違いを検討し、病理診断+遺伝子学的特徴をもとに膵腫瘍を鑑別します。鑑別した症例の術前画像の所見、CTの造影パターン、MRIの所見を解析し、それぞれの画像的特徴を明らかにします。

上記で得られた有意な特徴を基に、膵腫瘍の鑑別に必要と思われるパラメーターを設定し、術前の鑑別の可否を行い、後方視的な検討の有用性を評価します。

【研究期間】

倫理審査委員会承認日～2025年12月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴書（医師記録、看護記録）、血液検査情報、各種画像検査情報、病理組織検査 等

試料：病理材料（対象臓器名 膵臓）、超音波内視鏡検査画像 等

4. 外部への試料・情報の提供

なし

5. 研究組織

研究責任者：藤田医科大学医学部消化器内科学 教授 大野栄三郎

6. 利益相反について

この研究は、企業等からの資金提供は受けていません。また、この研究に関連する企業と研究者等との間に、開示すべき利益相反はありません。

7. 除外の申出・お問い合わせ先

試料・情報が本研究に用いられることについて研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合には、研究対象から除外させていただきます。下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、お申し出により、研究の対象となる方その他に不利益が生じることはありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

藤田医科大学医学部消化器内科学

担当者：大野栄三郎

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98

電話 0562-93-2324